

○目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p> <p>【学校教育目標】 ふるさとを愛し、みんなとともに未来を創る 前山っ子の育成 ～きのうよりも 一歩のびる～</p> <p>めざす子ども像 『自治自立』 ○学ぶ楽しさを感じながら、めあてに向かって粘り強く取り組める子 ○互いに認め合い、自分も相手も大切にできる子 ○明るく元気に、自分ができることに進んで行動できる子</p>	<p>本年度の重点目標</p> <p>○居場所のある学級、なかまづくりといじめや不登校のない学校づくり ○「地域とともにある学校づくり」の推進による活力ある学校づくり・・・コミュニティスクール前山による学校経営 ○「わかる・できる」楽しさを追及しながら、知識・理解の質を高めつつ、基礎・基本の定着を図る。 ○特別支援教育の充実 ○「地域を学ぶ、地域から学ぶ」の中で、郷土に対する誇りや地域活動に積極的に参加しようとする態度の醸成。 ○地域に愛着と誇りの持てる防災教育の推進 ○「自己有用感」を伸長させるキャリア教育の推進</p>
---	--

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策								
学校運営	生徒指導	・いじめ・暴力ゼロ 市民運動の推進 ・不登校対応	A	・授業や特別活動（児童会活動や学級活動）において、いじめが人権をふみにじるものであることやいじめに対してどのように行動するか考えさせていった。 ・特別な支援を要する児童への支援にあたっては、すべての児童に対する個に応じた支援の一環と位置付け、お互いの個性を尊重し、認め合う雰囲気作りを努めた。 ・一人一人の児童とその家庭に寄り添い、信頼関係にもとづいた不登校対応を実践し、結果として不登校児童（欠席日数30日以上）は、0名であった。								
	開かれた学校	・積極的な情報発信 ・オープン参観日等の実施 ・アンケートの実施や学校評価の公開 ・コミュニティ・スクール前山による学校経営	A	・学校だより「五台山」、学校HP、学級通信、保健室だより、校長通信「いつせの里より」など学校に関する情報を発信した。また、毎日下校のお知らせの放送の中で、一言ではあるが学校の様子を地域に発信してきた。 ・コロナ禍の中、地域や保護者の協力を得て、感染対策をとりながら、できる限りの行事を行うことができた。 ・地域に出かけて体験的な活動をしたり、有機農業・歴史学習・工作・クラブ活動など地域のゲストティーチャーから学ぶ機会を持つことができたりして、95%の児童が「前山のことが好き」と答えることができた。								
教育課程	学習指導	・学力向上 ・主体的対話的で深い学びをめざした単元構成の研究 ・校内研修の充実	B	・「教え考えさせる授業」と「考え深めさせる授業」を計画的に単元に位置付けることで、学力の向上をめざした。 ・対話的に学習を進めることや自分の考えを書き、発表する習慣が育ち、学習に集中して取り組む態度が見についてきている。主体的に自分で課題を見つけることや家庭においても積極的に自分の学習に取り組むことについては、課題が見られ、今後も家庭と連携していく必要がある。 ・GIGAスクール（一人1台タブレット）の推進の中で、PCタブレットを学習に効果的に活用していく取り組みが始まり、意欲的に進められている。（職員も児童も）今後、学年の発達段階に応じて、持続的であり良い使い方を追求していきたい。 ・自ら、粘り強く課題に向き合うことができる児童となるような、課題提示、言葉かけ等を工夫していく必要がある。								
課題教育	特別支援教育	・児童の特性や課題に応じた指導支援 ・適切な就学指導 ・保護者との連携	A	・定期的に校内で支援委員会を開催し、特別な支援を要する児童の状況について共通理解を図り、支援方法を柔軟に検討していった。その際には、家庭や関係機関と連携を図り、学校との信頼関係の構築を図った。 ・特別支援学級への入級、中学校進学については、保護者や中学校、健康課などと丁寧に連絡を取り、十分に納得した上で決めていくことができた。 ・すべての人がともに生きる社会の実現に向けて、児童や保護者を含め、地域全体に対する特別支援教育の啓発を持続的にしていくことが課題である。								
	ふるさと教育 防災教育 キャリア教育	・防災教育の充実 ・たんばふるさと学の推進 ・キャリア教育の推進 ・地域人材の活用やPTA等との連携	B	・引き渡し訓練、火災避難訓練、1・17メモリアル集会など年間指導計画通りに実施できた。豪雨災害からの復興の取組についても総合的な時間の学習において実践できており、児童の防災意識は育っている。地域の中で、地域の方と一緒に行動する経験が必要と感じている。 ・地域の人とのふれあいや社会体験をする中で、社会を見る目が育ち、将来的な自分の夢や目標を持たせていくキャリア教育を進めている。日常の集団生活での役割や節目節目に自分の成長や課題を意識させるためにキャリアノートを作っているが、その活用については十分とは言えず、さまざまなことに意欲的に取り組む態度を育むために生かしていくことが課題である。								
<p>※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育</p> <p>※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）</p> <table border="1"> <tr> <th>領域</th> <th>観点例</th> </tr> <tr> <td>学校運営</td> <td>学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等</td> </tr> <tr> <td>教育課程</td> <td>学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等</td> </tr> <tr> <td>課題教育</td> <td>特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等</td> </tr> </table> <p>※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善</p>					領域	観点例	学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等	教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等	課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等
領域	観点例											
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等											
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等											
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等											

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<p>・先生から厳しく叱られて終わりではなく、いじめについてどんな小さなこと、見たこと、聞いたことなど1つでも書いてくれればそれを取り上げて話し合うことを行ってほしい。</p> <p>・児童のアンケート結果で、学校生活内で不安等を感じていることが無いように注意深く見守ってほしい。</p> <p>・ICTが導入されたが指導者から見えにくいところでネットいじめやSNSでの不適切な行為がおこなわれないよう指導していただきたい。</p> <p>・不登校児童（欠席30日以上）は、0名の結果に対し、学校の取組を評価します。</p>
<p>・体験したことは大人になっても覚えている。地域に出向き、その場で体験することで「前山はすごい！」と思ってもらえて好きになってもらえたらうれしい。</p> <p>・先生は、不審者と関係者（地域の者）の見極めが難しいと思うが玄関が解放され、入りやすい雰囲気が感じられる。</p> <p>・学校だより、校長通信、毎日の下校のお知らせの放送での地域に向けた情報発信は、児童の学校生活の様子が分かり、評価しています。</p> <p>・児童の95%が「前山のことが好き」と思っていることに对学校の取組を評価します。</p>
<p>・主体的に学ぶことは大人でも難しく、各家庭での関わり方に差があると思われる。</p> <p>・タブレットの効果的、効率的な活用も必要ですが、人と人とのつながりも大切にしてほしい。</p> <p>・PC、タブレットは、家にあつて詳しい子とそうでない子の差がもともとある。ネットワークを利用する上で基本的なことを十分に指導した上で、学習に使用することを願う。</p> <p>・夏休み期間中だけでなく、自由研究を無理のないように増やして、ブランチでの野菜づくりや花や虫などの研究をし、集中力や自信や達成感がつけば、発表も自信をもってできるのではと思います。</p> <p>・タブレットの導入はこれから当たり前になるかもしれないが書くことが本当にできなくなるのではないかと思う。</p> <p>・教職員アンケートの「授業づくり」に関する項目で、Aが少ないのが気になる。小規模のメリットを生かし自信をもって指導していただきたい。</p>
<p>・子どもたちは様々な特性の子どもと接することにおいて大人よりも優れた面を持っている場合が多いと感じるが、保護者・大人がそうでないことが多いので、そういうことを知るチャンスをふやしてほしい。</p> <p>・この欄を記入するにあたりネットで調べたところ「家庭と学校との信頼関係が重要ということ」でした。その点、前山小では、各機関との連携を密にとっておられるようなので引き続きお願いしたい。</p> <p>・私を含め、他人事にならず保護者も学べる体制になることが必要。</p>
<p>・今いるところは、非常に小さい社会単位であり、中学・高校それ以降に広い社会が待っていることを伝えてほしい。</p> <p>・「いつせの里より」をはじめ校長先生が先頭に立って前山のことが好きになる教育が行われている。自然を正しく恐れて接していくことは災害などの時生きていく力になる。前山からできる「学び」を続けていただきたい。</p> <p>・コロナ禍で全体としてPTAと地域とていくつかの行事が行えなかったのは残念であるが、クラス単位では地域と関わっている授業があったと聞いているので目標は達していると思う。</p> <p>・キャリアノートはただ書いて終わりになっていないか。小学生はなるうと思えば、なんでもなれます。AIなど悲観的な将来ばかりが話に上がりますが、子どもたちが夢をもってまた、どうい道に進めば夢が叶うかそんな話をしていただきたい。</p>
<p>自己評価の実施方法についての評価</p> <p>・学校運営協議会において、学校経営についての評価計画が提案され、計画的に学校評価活動ができています。</p> <p>・保護者、児童、教職員のアンケート結果が参考になり、客観的に評価することができた。</p> <p>・自己評価においては、課題となる点も明記されているので、今後の取組に活かされていくことを期待したい。</p>
<p>学校関係者評価のまとめ</p> <p>・自転車にのった6年生の男の子が声変わりの仕掛けした大人のような声でこんにちはと声を掛けてくれました。10年前、保育園の送迎バスの中で甲高い声だった子がこんなに成長したのかと見直した。</p> <p>・もう数年すると社会人になり、地区を守り、市を守っていくのだと思うと、もっと子供の数がたくさんだったらと思います。</p> <p>・コロナ対策は、今後も継続しなければならないが、できる形を考えて、地域とのつながりを強める事業を展開していきたいものである。</p>

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

学習や体験活動、学校生活を通して、ともに学ぶことの楽しさを感じさせながら、学校における居場所づくりに努めていきたい。子どもが自己肯定感を育み、意欲的に伸びていこうとするためには、すべての子どもが「学校が楽しい」「前山が好き」と言える学校や家庭、地域であることが大切である。学校からの情報発信に努め、保護者や地域と同じ目標をめざして、前山コミュニティスクールを推進していきたい。

令和3年3月12日

学校名 丹波市立前山小学校
校長名 吉見 典彦 印